

NISHIHYOGO SHINKIN BANK 2019

●金庫の概要	1	●預金に関する指標	25
●営業地区	1	預金積金及び譲渡性預金平均残高	
●ごあいさつ	2	預金科目別残高	
●経営理念	3	預金者別残高	
●行動規範	3	定期預金残高	
●主な業務の内容	3	●貸出金に関する指標	25
●西兵庫信用金庫と地域社会	4	貸出金平均残高	
●地域密着型金融に関する取組状況	4	貸出金金利種別残高	
●金融仲介機能のベンチマークについて	6	貸出金使途別残高	
●トピックス	7	貸出金の担保別内訳	
●地域社会への貢献活動	8	債務保証見返の担保別内訳	
一般財団法人「 にしん 地域振興財団」		貸出金業種別内訳	
地域貢献		貸出金償却	
●総代会制度	9	貸倒引当金内訳	
●平成30年度の事業概況	11	●有価証券等に関する指標	27
預金積金		商品有価証券の種類別の平均残高	
貸出金		有価証券平均残高	
損益		有価証券の残存期間別残高	
●自己資本の充実の状況	11	有価証券の時価情報	
●リスク管理債権及び金融再生法開示債権の状況等	12	運用目的の金銭の信託・その他の金銭の信託	
リスク管理債権の引当・保全状況		満期保有目的の金銭の信託	
金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況		デリバティブ取引	
●お客さま本位の業務運営に関する取組方針	13	●主要な業務の状況を示す指標	29
●内部統制システムに関する基本方針	13	資金運用収支の内訳	
●統合的リスク管理の体制	14	受取利息・支払利息の増減	
信用リスク管理		業務粗利益・業務純益	
市場リスク管理		諸比率・諸利回	
流動性リスク管理		●自己資本比率規制の第3の柱(市場規律)に基づく開示	29
事務リスク管理		●商品・サービスのご案内	41
システム・リスク管理		●手数料一覧表	43
●コンプライアンス(法令等遵守)の態勢	15	● にしん のあゆみ	44
●反社会的勢力に対する基本方針	15	●組織の概要	45
●個人情報保護宣言(プライバシーポリシー)	15	役員一覧	
●金融商品に係る勧誘方針	16	●子会社等の状況	45
●保険募集指針	17	●事務所の名称及び所在地	46
●共済募集指針	17	営業地区・店舗網	
●利益相反管理方針の概要	18	店舗一覧	
●金融円滑化に向けた取組み	18	店外ATMコーナー	
●金融ADR制度への対応	18		
●貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書	19		
貸借対照表注記			
損益計算書注記			
会計監査			
財務諸表の正確性に係る内部監査の有効性の確認			

金庫の概要

■創 業	昭和23年8月15日
■所 在 地	兵庫県宍粟市山崎町山崎190番地
■電 話 番 号	0790-62-7701(代表)
■出 資 金	969,135千円
■会 員 数	25,931名
■店 舗 数	26店舗
■店外A T M	11カ所
■常勤役員数	335名
■預 金 量	462,457百万円
■融 資 量	204,547百万円

(平成31年3月31日現在)

営業地区

宍粟市、佐用郡佐用町、揖保郡太子町、たつの市、姫路市、相生市、高砂市、加古川市、神崎郡のうち福崎町、赤穂郡上郡町、赤穂市、加古郡播磨町・稲美町、明石市、神戸市のうち西区

(平成31年3月31日現在)



地域で最も信用、信頼される 金融機関をめざして



■ ごあいさつ

平素は、西兵庫信用金庫に格別のお引き立てを賜り心より厚くお礼申し上げます。本年も皆様がより一層**にっしん**についてご理解いただくことを願い、当金庫の経営理念、業績、経営内容等をまとめた「西兵庫信用金庫の現況2019」を作成いたしました。ご高覧頂きますようお願い申し上げます。

さて、平成30年度の我が国経済は、夏に相次いだ自然災害により、個人消費や輸出を中心に経済は一時的に押し下げられたものの、企業収益が過去最高を記録する中で設備投資が増加するとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続くなど、総じて緩やかな回復が続きました。当金庫の取引先の多くは中小零細企業であり、人口減少を背景とした売上不振、原材料費の上昇、慢性的な人手不足などの問題もあり、景気回復を実感するまでには至りませんでした。金融制度関連では、フィンテックの普及をにらんだ対応が本格化し、その推進の柱としてキャッシュレス化の促進が課題となりました。また、金融庁は、新しい社会・経済に向けた検査・監督行政への移行を進める一方、低金利長期化や企業数減少などを背景に、金融機関に対し、持続的成長に道を開くビジネスモデルの真剣な追求と構築を迫る姿勢を一段と強めました。

このような情勢下、昨年度は3カ年計画「**にっしん**中期経営計画2018(地域と共に成長する金融機関を目指して)」の初年度として、役職員一丸となって取り組みました結果、業容面におきましては、預金は、対前年度比で期末残高が2.3%増加、期中平均残高は2.5%増加いたしました。一方、貸出金は、対前年度比で期末残高が1.6%増加、期中平均残高は3.1%増加いたしました。損益面におきまして、今期の業務純益は23億7千万円、当期純利益は15億5千万円を確保することが出来ました。リスク管理債権の状況におきましては、平成31年3月末日現在で、貸出金に占める割合は4.1%となっております。しかし、そのほぼ全額を貸倒引当金あるいは担保等でカバーしており、信用リスクは極めて低い状態であります。自己資本比率も

19.0%と国内基準の4%を大きく上回る水準であり、安全性を確固なものにしており、当金庫の資産内容は高い健全性を維持しております。

経営の基盤拡大と経営体質の強化を経営の基本とし、合理化、効率化をはかりつつ役職員が懸命に努力しました結果、厳しい環境下ではありましたが、引き続き安定した業績を収めることが出来ました。

令和元年度は、政府の経済見通しによれば、10月に消費税率の引上げが予定されている中、経済の回復基調が持続する措置を講ずるなどの政策効果もあいまって、雇用・所得環境の改善が続き、内需を中心とした景気回復が見込まれています。ただし、通商問題が世界経済に与える影響や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等、景気停滞のリスクがあります。

当金庫においては、3カ年計画の中間年度となります。昨年度は、創立70周年事業で「感謝と飛躍」をスローガンにして、役職員一人ひとりの努力とチームワークが発揮された年でありました。今年度は、「お客さま第一主義」と「人財力・組織力の強化」に関して、さらに磨きをかけ、10年先に向けて飛躍できる年度としたいと考えております。具体的には、深化したMMSによるメイン化推進を基本として、Face to Faceでお客さまの話をよく聞き、ニーズに的確に応えられるよう営業店と本部並びに本部部門間が連携を密にして課題解決支援に取り組んで参ります。また、人財育成については、自らが考え実行することができる信頼される信用金庫人を育成することとしたいと考えております。当金庫と会員、地域の皆様との絆を一層深め、最良の金融サービスを提供することにより地域社会の持続的な発展に貢献するとともに、当金庫が安定成長軌道に乗るよう、役職員一丸となって尽力し精進を重ねる所存でございます。

今後とも何卒、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

理事長 **志水 宣之**